

## 教育の情報化に関するアンケート調査結果(まとめ)について

一般社団法人超教育協会では、全国の自治体における首長・教育長等を対象に、「教育の情報化」に関するアンケートを実施いたしました。本アンケートは、急速に進展する教育現場のデジタル化や ICT 活用の実態を把握し、今後の取り組みや課題の共有、さらには超教育協会への期待を明確化することを目的としています。これまでに Google フォームを通じて 101 件の回答を収集し、本レポートにてその結果をまとめました。

### 1 調査概要

---

①対象者:全国の自治体における首長・教育長等

②調査項目と回答方法

学校内ネットワークの状況・家庭のインターネット環境・教育における ICT の導入状況・教育における AI の導入状況・不登校児童生徒への対応・超教育協会に対する期待についての6問構成です。選択式で回答し、各設問に自由回答を設けています。

③調査の背景

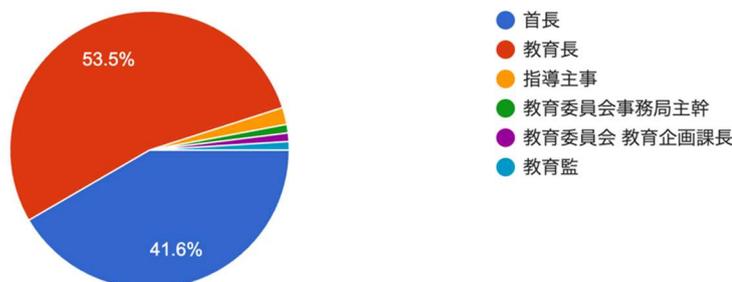
デジタル技術や AI が急速に普及する中、教育現場においても ICT や AI の活用が大きな注目を集めています。また、不登校児童生徒の増加や、家庭環境におけるインターネット環境の差異など、教育の多様化に対応する必要性が高まっています。本アンケートを通じて、自治体が抱える現状や課題、今後の取り組みの方向性を把握し、超教育協会として教育改革を支援するための指針を得ることを目的としています。

## 2 結果概要

Google フォームで総回答数 101 件の回答がありました。(内、首長:42 件、教育長:54 件、他 5 件)

### 回答者について

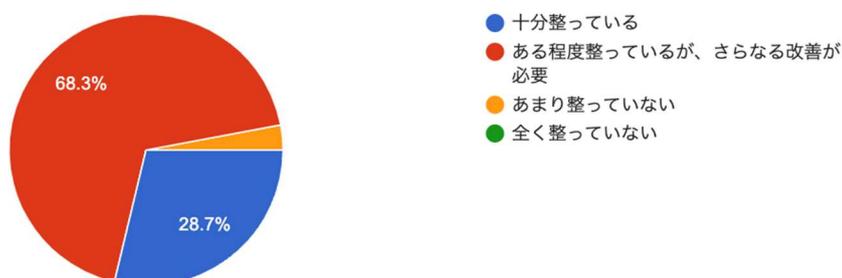
101 件の回答



### 質問1:学校内ネットワークの状況について

あなたの自治体の学校では、今後のデジタル学習に対応するために、高速で安定した通信環境が整っていますか？

101 件の回答

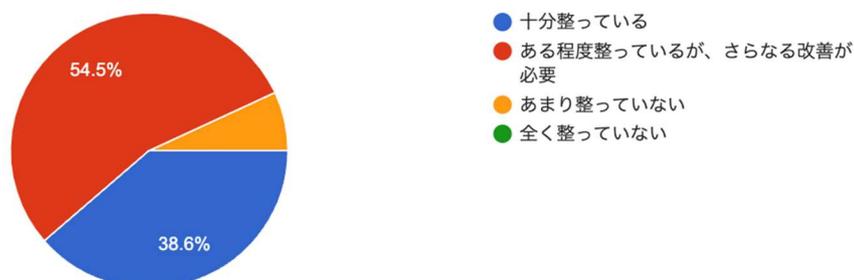


学校内のネットワークの状況について、改善が必要だと答えた方は約7割を超えました。多くの学校が文部科学省の「推奨帯域」に達しておらず、通信環境の整備が不十分な状況です。これにより、同時接続や大人数での利用時に遅延や接続不良が発生しています。特に、特別教室や体育館、校庭などの場所では通信環境が未整備であり、学習活動の幅が制限されています。また、デジタル教科書の導入や全国学力・学習状況調査の CBT 化に伴い、今後は大容量の通信が必要となります。これに対応するためには、老朽化した機器の更新やネットワークアセスメントの実施など、高速かつ安定した通信環境の整備が不可欠です。結論として、高速で安定した通信環境の整備・拡充が急務であり、教育現場の ICT 活用を促進するための基盤強化が求められています。

## 質問2:家庭のインターネット環境について

あなたの自治体の全ての家庭におけるインターネット環境は、学習機会の格差を解消するために整備されていますか？

101 件の回答

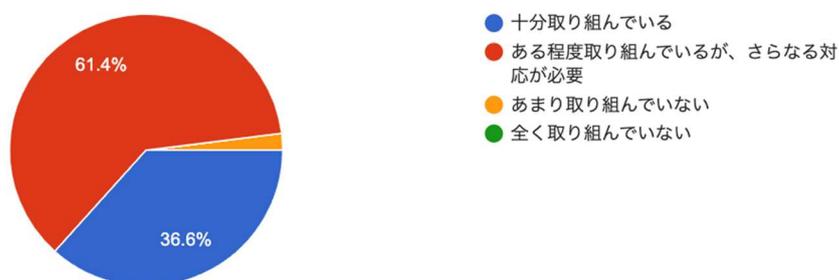


家庭のインターネット環境について、さらなる改善が必要だと答えた方は、約6割を超えました。家庭における通信環境には格差が存在し、光回線やWi-Fiが整っていない家庭が一部見られます。特に経済的困窮家庭では、スマホのテザリングや携帯回線に依存するケースがあり、教育の機会均等が課題です。多くの自治体がモバイルルーターの貸出や通信費補助を行っていますが、支援は一部に限られ、満額補助には至っていません。未整備地域や家庭に対する支援の拡充や通信費の負担軽減が求められています。今後、通信環境の高速化と支援制度の充実により、家庭間の格差を解消し、教育の機会均等を図ることが急務です。

## 質問3:教育におけるICTの導入について

あなたの自治体で、教育におけるICT(ネットワークインフラを含む情報通信技術)の導入にどの程度取り組んでいますか？

101 件の回答



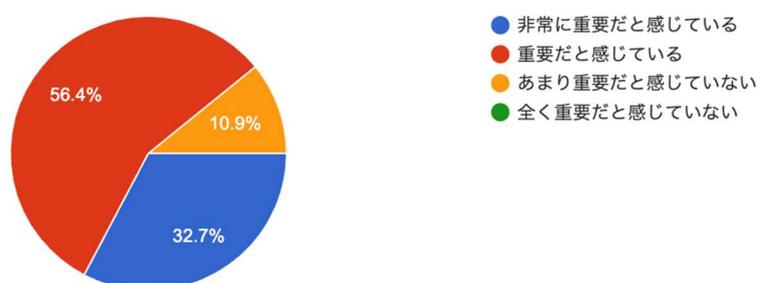
教育におけるICTの導入について、さらなる対応が必要だと答えた方は約6割を超えました。教育ICTの現状について、環境整備は進んでいるものの、活用度には学校や教員間でばらつきが見られます。教員のICT指導力や研修の強化、デジタル教材の充実が求められています。また、AIド

リルや電子黒板、クラウドツールの効果的な活用と、校務支援システムの整備不足も課題です。さらに、特別教室や体育館への無線 LAN 整備、高速回線の導入、通信費負担の軽減が必要です。教育データの利活用には、システム間のデータ連携や標準化の推進が不可欠であり、自治体単位での取り組み強化が望まれます。

#### 質問4:教育における AI の導入について

AI の教育への導入について、どの程度重要だと感じていますか？

101 件の回答

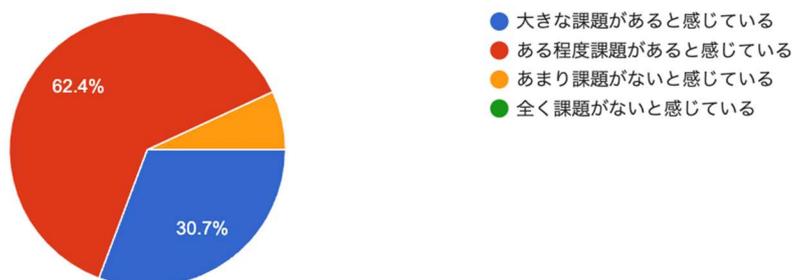


教育における AI の導入について、「非常に重要だと感じている」、「重要だと感じている」と答えた方は約9割です。デジタル化社会において、AI 活用の重要性が高まっており、教育分野でも個別最適な学びや教員の負担軽減、校務効率化への期待が大きい一方、いくつかの課題が浮き彫りとなっています。児童生徒には、AI を「使いこなす力」と共に、情報リテラシーや判断力を育成する教育が不可欠です。AI の利便性を享受しつつ、信頼性の検証や適切な利用方法を学ぶことが求められています。教員側では、AI や ICT を活用する指導力向上と研修が必要であり、ガイドラインや実践事例の共有が重要です。また、生成 AI の導入に伴う著作権や倫理面への対応も課題となっています。今後の教育では、AI の効果的な活用を通じて、児童生徒の学びを深めるとともに、教員の働き方改革や校務 DX を推進し、教育の質的向上を図る必要があります。

#### 質問5:不登校児童生徒への対応について

現在の学校教育システムにおいて、不登校児童生徒への対応について課題があると感じていますか？

101 件の回答



不登校児童生徒への対応について、「大きな課題がある」、「ある程度課題がある」と回答した方は約9割を超えました。不登校の背景には複雑な要因が絡んでおり、学校だけで対応するには人的資源が不足している現状があります。ICT の活用やメタバース、オンライン学習ツールなどが有効な手段として期待されているものの、学習の質や環境整備、教職員の研修体制の強化が課題です。また、自宅学習における Wi-Fi 環境の未整備や学習ツールの十分な活用が進んでいない家庭も存在し、さらなる支援が求められています。多様な学びの場を提供するため、校内の別室登校やフリースクール、サテライト教室の設置が進められていますが、人的配置や予算の確保が大きな課題となっています。さらに、不登校児童生徒が孤立しないために、関係機関や専門家との連携強化や、個々の状況に寄り添った柔軟な支援体制の構築が不可欠です。今後は、ICT やデジタル技術を活用しつつ、学びの多様化に対応できる教育システムの構築、人材確保、支援員の配置、オンライン学習の環境整備を進め、不登校児童生徒一人ひとりの学びと居場所の充実を図る必要があります。

#### 質問6:超教育協会に対する期待について

超教育協会に対して、どのような提言や具体的な取り組みを期待していますか？

97 件の回答



▲ 1/2 ▼

### **3 今後の展望**

---

今回のアンケート調査では、全国の首長および教育長等と対象とし、教育の情報化の現状や課題について意見を収集しました。その結果を踏まえ、超教育協会では、「教育ラストワンマイルの整備」「教育におけるAI利用の促進」「超教育環境の整備」の3つを柱とした提言を行う予定です。

### **4 お問い合わせ先**

---

一般社団法人超教育協会

住所: 〒105-7508 東京都港区海岸 1-7-1 東京ポートシティ竹芝オフィスタワー8階 CiP内

E-mail: info@lot.or.jp